PART3　結びの省略・結びの流れ・現代語訳に気をつける係助詞・間投助詞

★**「結びの省略」**→係助詞の「　　」の**一文字**確認

●**に**＋{ぞ／なむ}、。→「　　」を補う

●**に**＋{や／か}、。→「　　」を補う

●**に**＋こそ、。→「　　・　　」を補う

●**と**＋係助詞、。→「（　　）・（　　）」を補う

問十二　「参ればにや」の後に補う語句として最適なものを、次の中から選べ。

ア　あらむ　　イ　あらめ　　ウ　ありけり　　エ　ありけれ

問十三　「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　　イ　あらん　　ウ　参らばや　　エ　あらじ　　オ　多かりし

問十四　「昔の契りも深くこそ。」の後に語を補う場合、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あり　　イ　ある　　ウ　あらむ　　エ　あらめ　　オ　ありけり

★「結びの流れ（消失・消滅）」

本来結びとなる語に、接続助詞などが付いて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）たとひ耳鼻**こそ**切れ失すとも、命ばかりはなどて生きざらむ。

問十五　各傍線部「こそ」の説明として、最も適当と思われるものを、次の中からそれぞれ選べ。

「よろづのこと、さまに従ひて[1]こそめやすけれ。〈中略〉御声[2]こそ惜しみ給ふとも、少しけ近くだに[3]「こそ」などいさめ聞こえ給へど…

ア　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として逆接的に下に続く。
ウ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として反語の表現となる。
エ　係りに対して結びが流れ、強調文として終止する。
オ　係りに対して結びが流れ、強調文として逆接的に下に続く。
カ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。
キ　係りだけで、その部分を強調提示する。
ク　係りだけで、言外に逆接的な意味を暗示する。

1 ＝

2 ＝

3 ＝

問十六　A～Dの傍線部「こそ」の結びの説明として、最も適当と思われるものを、次の中からそれぞれ選べ。同じ記号を複数回使ってもよい。

さしむかひたる歌ども取る こそ(A)、かへすがへすさまあしく候へ。
（当世の歌を〈まねて言葉を〉取るのは、本当にみっともないことです。）

ことばをやさしくとりなしてよめと こそ(B)候ひしを、口にまかせて、人まねうちして、…
（言葉を優美に取り扱って詠めとございましたのに、口にまかせて、人真似などをして、…）

歌のすがたもみな変り候ふに こそ(C)。
（歌の姿もみな変わっていくのです。）

やさしき心ことばを こそ(D)、今の世にも上手とおぼゆる人々は、このみよみあはれ候ふめれば、むかし今、かはるべきにもあらず。
（優雅な心や言葉を、現代でも歌の名人と思われる人々は、好んで詠みあっていらっしゃるようですので、昔も今も、変わるはずのものではない。）

ア　活用する語の終止形で終止している。
イ　活用する語の連体形で終止している。
ウ　活用する語の已然形で終止している。
エ　結びの語、あるいはそれを含む文節全体が、文中にあらわれていない（結びの省略）
オ　結びの語で文が終わらず、接続助詞を伴って続いているため、係り結びが成立していない（結びの流れ）

A＝　　　B＝　　　C＝　　　D＝

★「逆接強調法」

「**文中**」の「こそ…已然形、〜」→ 訳出の時に「…　　　　　、〜」などの「　　　　　」を補う。

（例）中垣**こそ**あれ、一つ家のやうなれば、…
（仕切りの垣根はある　　　　　、一つの家のようであるので、…）

★「危惧の用法」

●もぞ
●もこそ
＝「〜したら　　　・　　　」と訳す

（例）雨も**ぞ**降る。
（　　　　　　　　　　）

問十七 「顕証にて出でひろめかばこそはあらめ、さるべきかくれ…」の傍線部の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　人目に付くほど出歩いたりすることもあるだろうし
イ　人目に付くほど出歩いたりすれば差し障りがあろうが
ウ　人目に付くほど出歩いたりすれば困ったことになるので
エ　人目に付くほど出歩いたりすることはないだろうから

問十八 「人もこそ聞け」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　人に聞かれたら困ったことだ
イ　人に聞かれてしまうかもしれない
ウ　人に聞かれることはあるまい
エ　人に聞かれてもかまうことはない
オ　人に聞かれるとどうしようもない

問十九 「けしからぬ者などはのぞきもぞする。」の傍線部の現代語訳として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　排除しかねます
イ　のぞくこともあります
ウ　排除などできるでしょうか
エ　のぞき見したら困る
オ　排除するでしょうか、いやしません

間投助詞（や・よ・を・こそ）

★「こそ」の意味

①　呼びかけ（～さん）

「人物 **こそ**。」

（例）「右近の君**こそ**、まづ物見給へ。」

★「や」・「よ」・「を」の意味

①　詠嘆（～なあ）
②　強調（訳出不要）
③　呼びかけ（～よ）

〈Memo〉

第18講　PART3　確認問題

①「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて…」の傍線の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あらめ　　イ　あはれめ　　ウ　つつめ　　エ　ながめ

②「飼ひける犬の暗けれど主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。」の傍線の係助詞「ぞ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ある　　イ　なる　　ウ　いふ　　エ　す

③「白き花咲きたるさまぞ、いとをかしけれど、…」の傍線の係助詞「ぞ」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として下に続く。
ウ　係りに対して結びが流れ、強調文として下に続く。
エ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。

④ 「烏（からす）などもこそ見つくれ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　烏などが見つけたら大変だ。
イ　烏などこそ見つけるだろう。
ウ　烏などが見つける事はあるまい。
エ　烏などにこそ見つけて貰いたい。

⑤ 「<u>はじめこそ心にくくもつくりけれ</u>、今はうちとけて、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　初めの頃に奥ゆかしく取り繕っていたとしたら
イ　初めの頃は奥ゆかしく取り繕っていたけれども
ウ　初めの頃に奥ゆかしく取り繕うことがなかったので
エ　初めの頃に奥ゆかしく取り繕おうとしていたため

第18講　PART3　解答

問十二　ア
問十三　イ
問十四　エ
問十五　1 ア　2 オ　3 キ
問十六　A ウ　B オ　C エ　D オ
問十七　イ
問十八　ア
問十九　エ

第18講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

①　結びの省略の問題。「に」が係助詞「こそ」の上に来ているので、「あらめ」が省略されている。

②　結びの省略の問題。「と」が係助詞「ぞ」の上に来ているので、「言ふ・思ふ」などが省略されている。

③　結びの流れの問題。本来であれば係助詞「ぞ」があるため「をかしき」と連体形で結ぶべきところが、已然形に接続する接続助詞「ど」が下につく事によって、結びの語が「をかしけれ」と已然形となってしまっている。このような形となる事を、係り結びの「結びの流れ」という。

④　現代語訳に気をつける係助詞の使い方として、「危惧の用法」についての問題。係助詞「ぞ・こそ」に「も」がつき、「もぞ・もこそ」の形で使われる場合、「～したら困る・大変だ」という形に訳す。

⑤　現代語訳に気をつける係助詞の使い方として、「逆接強調法」についての問題。「こそ～已然形、～」というように、結びの語の後に読点がつき下に文章が続いている場合、逆接の用法となり、「～けれども」、「～が」と訳す。

〔解答〕

①　ア　　②　ウ　　③　ウ　　④　ア　　⑤　イ